

令和元年度第1回高知県歯と口の健康づくり推進協議会 議事要旨

- 1 【日時】 令和元年7月30日（火）19時00分～20時30分
- 2 【場所】 高知県庁2階 第2応接室
- 3 【出席者】 協議会委員16名出席、欠席3名、事務局10名
- 4 協議事項
 - (1) 歯と口の健康づくりに関する現状について
 - (2) 第2期高知県歯と口の健康づくり基本計画に基づく平成30年度の取組実績及び令和元年度の取組予定について
 - (3) その他

5 議事の経過の概要

委員の任期が令和元年6月末で満了になったことに伴い、新たなメンバーに交代となった。今期の会長を野村委員（高知県歯科医師会）、副会長を郡谷委員（全国健康保険協会高知支部）に選出後、会長の議事進行により、各議題について事務局の説明を受け、協議が行われた。

議題

- (1) 歯と口の健康づくりに関する現状について
 - ・委員より、中間年でデータがない項目については次年度に議論していきたいと意見があった。
- (2) 第2期高知県歯と口の健康づくり基本計画に基づく平成30年度の取組実績及び令和元年度の取組予定について
 - ・委員より、フッ化物洗口実施施設は少しずつ増加しており、今後も洗口開始の働きかけを継続していく必要があること・歯磨きをせず歯肉炎を有する子どもや健診で要治療を指摘されても治療しない子どもの増加について報告があった。
 - ・委員より、フッ化物洗口実施施設数は増加しているが、洗口実施者数は把握できているか質問があった。
事務局より、正確な数については、次回の検討会時に報告したいと回答。
 - ・委員より、フッ化物洗口が進まない要因について質問があった。
事務局より、学校現場では洗口に割く時間がない・洗い場が不足している・アレルギーの問題等の課題があるが、先生方にフッ化物洗口の効果を理解していただきながら、実施施設が増加するように今後も働きかけていくと説明。
 - ・委員より、洗口が進まないのは事務局の指摘するように、管理上や環境の問題が大きく、各養護教諭の認識にも差があると意見があった。

- ・委員より、洗口未実施施設に対して今後も啓発を継続していくと意見があった。
- ・委員より、知事出演の歯周病予防啓発 CM の効果について質問があった。
委員より、レセプトデータを基に、知事出演 CM により大きな効果があったことを報告。
- ・委員より、在宅歯科医療連携室の稼働件数について、問い合わせ・診療依頼件数と訪問診療実施件数に差があることについて質問があった。
委員と事務局より、訪問診療依頼者の中には既にかかりつけ歯科を持つ者や、自身で通院できる者もいるため差が生じていると説明。
- ・委員より、幡多地域で介護支援専門員が不足しており、口の問題まで手が回っていない。
介護支援専門員の人材確保とともに、家族等関係者に対して口腔の重要性周知に取り組んでいきたいと意見があった。
- ・委員より、歯科衛生士奨学金について額や貸与か給付かについて質問があった。
事務局より、月額 5 万 3000 円の貸与で、高知市・土佐市・南国市・旧いの町以外の歯科医院に貸与期間の 1.5 倍の期間勤務すれば返済不要となると説明。

(3) その他

- ・委員より、高知県歯と口の健康づくり条例の改定にあたり、オーラルフレイルという言葉盛り込むことの報告と口腔がん検診を進めていきたいと意見があった。

以上をもって、20 時 30 分に閉会した。